



ブータンの子供達

NPO法人 国際農民参加型技術ネットワーク
IFPat International Farmers Participation Technical Network

イフパットだより

～農民参加なくして農業なし～

NPO便り第2号に寄せて:

第2号の「イフパットだより」お届けいたします。今後も継続して本紙を通してニュースレターとしてNPO活動の様子をお伝えします。

*タイ、チェンマイ大学工学部に客員教授として活躍されている我がNPO会長伊藤信孝先生から記事をいただきました。タイ、カレン族村を訪問したときの様子を報告していただきました。

*ブータン紀行文「ブータン見たり聞いたり」を掲載します。ブータンに派遣されている櫻井文海氏を訪ねた時の感想文です。編集文責:辻本壽之

1. はじめに

新年明けましておめでとうございます。

第2号は、昨年の活動を踏まえ今年引き続きJICA筑波で進めている「技術リソースパッケージ」(教材ビデオ)の作成に協力しています。今年度は、「唐箕の作り方と使い方」について作成しています。撮影はほぼ終了し現在編集作業に入っています。この度の唐箕製作ビデオは、製作過程に重点を置いたものになると思います。

2. タイ、カレン族村訪問

10月1日よりタイのチェンマイ大学工学部に一時的に身を寄せることになった。チェンマイ大学工学部長と共に少数民族カレン族が住むバン・メ・ロン村を訪れた。チェンマイ市街から3時間ほどかかった。山間で雨が降ると道がぬかるみ、4輪駆動車でさえ容易に走破できない。時間がかかった理由の一つが悪い道路環境にあると要っても過言でない。訪問の目的は

1) 小学校校舎建設の定礎式に参加すること

2) 村で必要な水の確保とそれを用いた小水力発電の可能性の調査で、同時にその水を飲料水と農地灌漑の両方に使用する。ここでは小学校建設に先立ち参加した定礎式について記す。

10月12日朝9時から定礎式が挙行された。学部長を始め関係者が一同に会し、横断幕の前で鉄筋を組んだ柱を立て記念写真を撮る。ここに努める関係者はかつては軍にいた経験があり、現

この度、伊藤信孝会長から原稿をいただきました。現在伊藤先生はタイ、チェンマイ大学で客員教授として活躍されております。チェンマイ滞在中にタイ北部少数民族カレン族の村での視察情報報告です。

本号はまた第1号にて報告したブータン視察旅行の報告に続き第2回(旅行雑感)紀行文を掲載します。

在は警察官の身分を有しているが、さらに学校の教師でもある。さらに村の中で病人がでたときには、そのための対応ができる医療面での知識も持ち合わせている。お産に立ち会うことや点滴注射をするなど多くの知識が求められ、それらを持ち合わせた者が集められていると言う。国境警備という面から軍の経験が必要なのである。彼らは緑の制服にベレー帽をかぶり、前日の山歩きの案内をしてくれた時とはうってかわったきりっとした出で立ちで定礎式に臨んだ。

鉄筋の柱が立てられると今度はコンクリートの打ち込みである。2人の大人が砂と砂利、セメント混ぜて水をかけてコンクリートを作る。それをバケツで2、3人の子供が運んで打ち込む。しかし基礎穴が掘られている足場の悪い所をバケツに入ったおよそ5kgのコンクリートを運ぶのは容易でない。足場の敷地は最近降った雨でしめり粘土さ

目次

1. はじめに
2. タイ、カレン族村訪問
3. ブータン、見たり聞いたり
(ブータン報告第2報)
4. 技術リソース・パッケージ
(教材ビデオ、唐箕)
5. おわりに
(お知らせ)

2. タイ、カレン族村訪問(続き)

ながらで靴の裏にこびりつく。運べども運べども一向にコンクリートが鉄筋の周りに堆積しない。これでは運んでいる子供達も報われない。コンクリートを配合している大人達に比べてやる気をなくさせる状態である。そこで「我々の方法を紹介しよう」と切り出したが、最初は「いや彼らがするからいい」と言う大人達の反応であった。それを押し切って先頭に立って模範を示すことにした。子供達も入っておよそ6人ほどが列をなして並んだ。いわゆるバケツ・リレイである。初めて見ると作業速度の速さに驚き、遊んでいる大人や子供を呼び込みさらに2、3人が加わった。一人当たりが運ぶバケツに入ったコンクリートを運ぶ距離はわずか1メートル、次から次へと運ばれるから瞬く間に配合したコンクリートが減り、配合を受け持っていた大人達はきりきりまいの忙しさになった。基礎柱の鉄筋の周りには目に見えるようにコンクリートが流れ作業は一段落した。

このバケツ・リレイがもたらした効果は大きく、

- 1) これまでと異なる手法の提案
 - 2) 飛躍的に作業速度が速い
 - 3) 個人の労働力負担の軽減が著しい
- ことに加えて、
- 4) 全員が協力すれば「やれる」との団結心をかき立てた

教育的観点からの効果も大きいと考えられる。すなわち「彼らの作業に対するモチベーション

を高めた」と言えよう。

あとで学部長が「いいことをしてくれた、子供達もこれからは見習うだろう」と謝意を表してくれた。そこで少しばかり教育について意見を述べた。以下はその内容の骨子である。

作業速度が遅いとやる気が出なくなる。しかも重い荷物を運んでも目に見えて成果が出ないと作業する意欲が衰え、能率は極端に落ちる。納期に間に合わない事も理由の一つとなるが、何よりも働く者の気力を落とす。ましてや村の者が集まってボランティアで労働力を提供する方式では、成果が目に見えないと協力の意欲も衰える。能率の上がる作業法を紹介したということに加えて、今回のような場合は村人の団結力を高めるためにも作業能率は重要な要素となった。村人のやる気へのモチベーションをあげる事が重要である。(伊藤信孝)



(写真は定礎式の後の記念写真：基礎柱鉄筋左が工学部長、その右が筆者)

3. フータン見たい聞きたい

幸運な事にブータンに行く機会にめぐまれ、雲の合間を縫って山間のパロの飛行場に降り立ったのは8月29日、雨期の最中で心配していた天候にも恵まれました。

ブータンは九州の約0.9倍の面積で山また山の国、まっすぐな道路を見つけるのが難しいほど、山肌を這うような道は、うねうねと果てしなく続いています。すぐそこに見えているのに、くねくねと、登ったり降りたり、何処に行くのも時間がかかります。眼下に流れる川は、雨で増水し、岩肌にぶつかっては砕けながら勢

いをましていく。この豊富な水を利用して、水力発電の電気をインドに輸出しています。

海拔約2400mのところにあるパロの町は、こじんまりした穏やかな所です。野良犬が路上のあちこちに死んだように寝そべっている。車が上手によけるのにも感心するけれど、エンジンの音に、ピクリとも動かないのには驚きました。でも夜になると活動的になるようです。時々路上をゆうゆうと歩く牛や馬に出会います。クラクションも鳴らさず、通り過ぎるのをじっと待っています。穏やかな国民性で、主にチベット仏教を信仰するブータン人は、殺生する事をきらいませぬ。川魚を取るにも許可がいるそうです。そのせいか旅行中、魚料理にお目にかかったのは一度だけでした。

3. フータン見たい聞きたい(続き)

日本人の顔立ちとそっくりなブータン人、お互いの民族衣装を交換して着たらどちらか区別がつかないほどでしょう。民族衣装は、男はゴ、女はキラとって、日本の着物とよく似ています。もちろん、今の流行のジーンズをはいている若者の姿も見受けられますが、正装はゴとキラで、政府の役人、学校の先生や子供達の制服はもちろんの事、街中でもよく見かけました。とくに小学生のゴやキラを着た制服姿はとてかわいらしく、日本の時代劇に出てくる着物姿の子供達を思わせます。ブータンでは第二外国語として小学一年生から英語教育が行われているので、子供達も英語がよく通じました。こちらでは大学はインドに留学する人が多いそうです。

お料理にはチーズと唐辛子をよく使います。エマダチという料理は、唐辛子を少量のお湯で煮てチーズと塩を加えた物で、エマは唐辛子でダチはチーズという意味だそうです。日本でいえばお新香のような存在で、エマダチがないと何か欠けているような気分になります。とても美味しかったです。主食はお米で赤米も食べます。

蕎麦も取れます。蕎麦粉はパンケーキの様に焼いて、おかずをのせて食べたり、又手で細長くよった物を牛乳のスープで食べたりします。蕎麦は日本の食べ方と大分ちがいますが、米を煎っただけのザオというお茶菓子は、玄米茶の玄米のような香ばしい味がして、親近感をおぼえます。

お茶はスジャという塩味のもので、紅茶に牛

乳とバターと塩を入れて作ります。紅茶には砂糖という考えしか頭に浮かばない私にはとても新鮮でしたが、なかなか受け入れがたい物もありました。

麦から作った焼酎のような自家製のお酒を何軒かの家でいただきましたが、味はそれぞれのお家自慢があるらしく微妙にちがうらしいです。アルコールに弱い私としては微妙な味が解らないのが残念でした。ブータンの女性達も自家製のお酒を楽しむそうです。

今回はJICAの仕事で行かれています桜井さんに大変お世話になりました。桜井さんがお仕事のご苦勞を越えて、いかに現地の人々との交流を大切に、良い関係を築いていらっしゃるか実感いたしました。おかげさまで今回旅行目的の一つであるセミナーを無事に終える事ができました。又毎日のようにあちらこちらとご招待にあずかり、どこに行ってもとても親切なおもてなしを受けました。なかでも4000mの山頂でピクニックをしてくれた事は感動でした。車にご馳走を積んで、日本では考えられない軽装で、雲の上にいる不思議な感覚と、すばらしいながめ、楽しいおしゃべりで時を忘れました。おかげさまで現地の人々との自然な交流ができていろいろなお話ができたことはとても良い経験になりました。私達をあたたく迎えてくださったブータンの人々に感謝しています。

ブータンは王政でしたが、今年2007年の12月に、国王自らが推進してきた初めての選挙が行われ、民主制に移行します。初めてのブータンの研修生として、JICAに20歳頃に来日したジャンペ・ドルジさんも立候補します。当選なさる事を、又ブータンがいつまでも穏やかな国であってほしいと願っています。

(辻本ひろ子)



カウンターパート達と一緒に



ワンチェンさんの奥さんと一緒

NPO法人 国際農民参加型技術ネットワーク(IFPat)
319-0315 水戸市内原町1039-2
辻本壽之(Dr.Toshiyuki Tsujimoto)

電話 FAX 兼用
029(259)3720

Email: tsujimototoshi3@white.plala.or.jp

4. 技術リソース・パッケージ (唐箕の作り方とその利用)

JICA筑波の農業技術リソース・パッケージの一つとして今年度は「唐箕」の作り方と使い方についての教材ビデオを作っております。3月には完成予定です。「唐箕」は、稲や豆などを収穫した後、収穫物に混ざっているもみ殻、わら、未熟粒、ごみなどを除去し選別する農具です。日本では、江戸時代の17世紀後半頃からこのような選別に用いられるようになり、脱穀後の選別の省力化に大きな貢献をしてきました。日本における農具の発展の中で、「唐箕」は最も古い農具の一つです。

IFPat 国際農民参加型技術ネットワーク

農民参加なくして農業なし!

本NPOの活動に賛同してく
れる人の会員募集! 連絡は
上記まで・・・

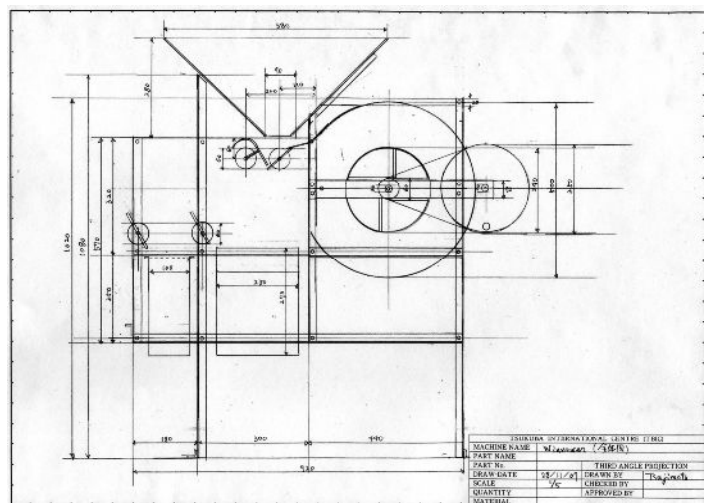
「唐箕」は手回し式ファンで風を送り、風の強さにより選別の能率を調整することが出来ます。自然の風を用いる選別よりも作業効率が格段に良いのが特徴です。近年日本ではモーター等を付けた更に効率の良い「唐箕」が普及していますが、途上国向けに手動式唐箕を設計し、その作り方を示したものです。



風洞、ファンの部分を透明にし粉の流れを見やすくした

5. おわりに(お知らせ)

第1号の表紙副題に“農民参加なくして農業なし、農業のことは農家に聞け”と言う文章は少し言葉足らずで誤解を招いたように思います。意味するところは、農業・農村開発協力の主役は農民であることを忘れず。またその地域の農業技術は、地域の農民が長年培ってきた伝統的技術の中にこそ、地域にマッチした技と知恵がある事を忘れてはいけないと思うからです。常に地域農民の技術を実証しながら問題提示して行く事が重要であると思われまます。農民から学ぶことはたくさんあると思っています。



技術リソースで試作した唐箕(全体設計図)

